

2021 年 7 月 7 日

学校法人 近畿大学  
理事長 世耕 弘成 殿

近畿大学教職員組合  
執行委員長 阪本 洋三

### 団体交渉要求書

近畿大学教職員組合は、学校法人近畿大学（以下、貴法人）に対し、前期の残り期間、および後期の授業形態・コロナ対策について以下のように要求する。

1. 貴法人は学内入構制限措置対応表において、まん延防止等重点措置が解除された場合の対応をステージ1（感染状況観察）と位置づけている。ステージ1となった場合の授業形態は「感染防止対策の上、収容人数で対面実施可」とあるが、ステージ2・3・4に記される「十分な感染防止対策の上」から「十分」が削られており、感染防止対策を緩和するものと判断できる。しかし、現状でも感染防止対策は十分とはいえない状況（座席間隔が狭い、座席間のパーティションがない、教室移動等の際に学生が密集する、消毒用アルコールのない教室がある等々）であるのに、これ以上対策を緩めることは危険である。ステージ1であっても、より一層の感染防止対策を実施すること。もちろん、収容人数での教室使用などは論外である。当面は収容人数の1/2以下を維持せよ。
2. 近日中に大阪府のまん延防止等重点措置の延期・解除が決定するが、解除となった場合は7月12日からステージ1対応ということになる。しかし、前期終了間際になって授業形態を変更すると学生・教員ともに混乱が生じ、教員の負担も増大する。また、ワクチン接種も1回目の途中であり、キャンパスが過密状態となるにはまだ早すぎる。よって、府の判断の如何によらず、現状のステージ4対応を続けること。
3. ワクチン接種が進んでも感染対策が不要になるわけではない。ワクチン接種を希望しない学生や教職員への配慮も必要である。対面授業の強制や感染防止対策の安易な緩和を行わないこと。
4. 貴法人は内閣府のモニタリングとして6月30日までPCR検査を実施したが、これで終了とせず、今後は別の形態でPCR検査を継続すること。また、抗原検査は8月6日で終了することになっているが、こちらも継続すること。夏期休業中、そして後期授業開始後も、である。
5. 後期に向けて、ハイフレックス授業の設備・補助要員の確保を進めること。教員個人の所有機材や労力に任せた形ではなく、大学としてハイフレックス授業の環境を拡充すること。

回答は一週間以内とする。

以上